高 大園同窓会報

発 行・編 集
大阪府立園芸高等学校大園同窓会
〒563-0037 池田市八王寺2-5-1
印 刷
株式会社 サラト
〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172
電話 079-284-1380

校歌
銀杏の木陰　道ひろく
真理にひらく　知慧の門
みのりゆたかに　みいま結ぶ
木の実尊き掌　幸あり
われらがわれら　腕
土のかおりも　さわやかに

園芸高校の歴史を見守ってきたトックリランを次の世代へ



1932年の卒業アルバムに載るトックリラン



現在のトックリラン 2026.３.24 撮影


老朽化のため令和８年度に
解体撤去予定の草花大温室

94年以上を生徒とともに

温室の解体に伴い、この貴重なトックリランの命も失われる運命にありました。しかし、このトックリランは長い年月をかけて園芸高校の歴史を見守り続けてきた、かけがえのない存在でもあります。同窓会では、学校と力を合わせて「園芸高校の宝」を未来へ残すため、トックリランの保存への取り組みを始めました。

園芸高校の歴史を見守ってきたトックリランを次の世代へ
（詳細は、３ページをご覧ください）



大園同窓会推進事項

学校創立120周年へ　学校・学生への教育支援の強化

会費、寄付金の推進強化

同窓会活動の拡大・学校広報の活発化

学校発展のために推進をお願いします！！

トックリランの保存にご支援・ご協力を！！

園芸高校の歴史を見守ってきた ～「トックリラン」～物語

1982年（昭和57年）３月　園芸科卒　足立　享志

園芸高校の草花大温室の植物といえば、同窓生の方の多くが「日本最大のトックリラン」と答えるのではないでしょうか。それほどインパクトの強い園芸高校のシンボルでもあったトックリランが消滅する危機にあります。

園芸高校で長年シンボル的存在であった草花大温室が、老朽化のため令和８年度に解体撤去されることになりました。すでに当温室は15年ほど前に冬季の暖房が停止され、その後、多くの植物が厳しい寒さの中で姿を消していきました。しかし、そのような厳しい環境の中でも生き続けた植物があります。それがトックリランなのです。

今回の温室解体にあたり、同窓会では温室の歴史を振り返るため、同窓生の記憶や歴代の記念誌、卒業アルバムなどを調査しました。その結果、このトックリランが極めて貴重な存在であることが判明し、学校と同窓会が協力して保存に向けた取り組みを始めました。

・草花大温室について

草花大温室は1969年（昭和44年）に完成しました。当時の農業高校の温室は、施設園芸などの栽培技術を学ぶためのものが主流でしたが、この温室は植物の鑑賞や保存を目的としており、多くの貴重な植物が植えられていました。

また、鉢底から給水するロータリーベンチを備え、限られたスペースで効率よく多くの植物を育てることができ、最盛期には約300種類の観葉植物や数十種類のラン類が栽培されていました。

その後、40年以上にわたり、生徒たちに生きた教材を提供し続けましたが、約15年前に学校全体の光熱費削減に伴い冬季の暖房が停止され、温室内にあった植物は移動できた鉢物を除いてそのほとんどが枯死してしまいました。この温室で学んだ思い出を持つ同窓生も多いのではないでしょうか。

・トックリランとは

トックリランは名前に「ラン」と付いていますが、ラン科ではなくキジカクシ科の植物です。

原産地はメキシコで、日本には1900年（明治33年）頃に導入されたとされています。

株元が徳利（とっくり）のように膨らむ独特の姿が特徴ですが、その成長は非常に遅く、株元の太さは1年で数ミリから1センチ程度しか大きくなりません。そのため、株元の直径が1メートルを超えるような個体は、100年以上の年月を経た非常に貴重なものと考えられています。

・園芸高校のトックリラン

園芸高校のトックリランについては、多くの同窓生が「日本最大のトックリラン」と教わった記憶を持っています。

そこで、学校に残る記念誌や卒業アルバムなどを調査したところ、次のような記録が見つかりました。

1932年（昭和7年）
秦野校舎時代の卒業アルバムに、温室内のトックリランが写っている。



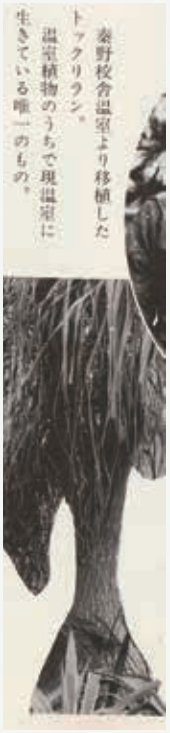
1941年（昭和16年）
学校が現在地（池田市神田）へ移転。多くの植物が移植され、温室での栽培も続けられる。

1969年（昭和44年）
草花大温室が完成。



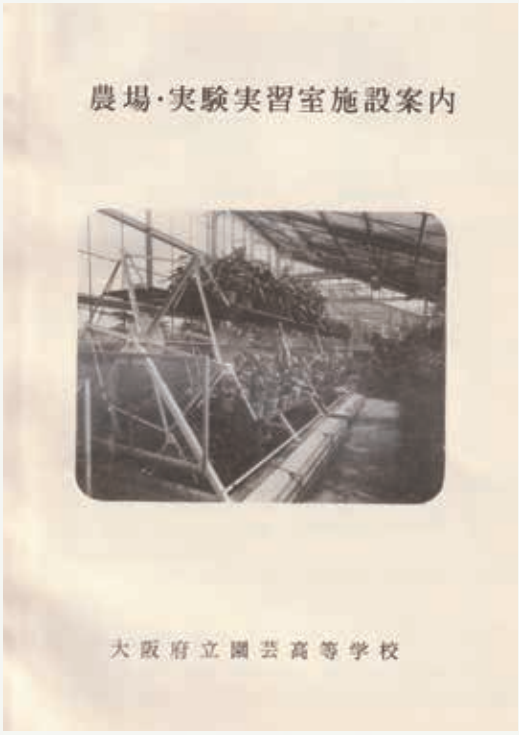
1973年（昭和48年）
創立60周年記念誌（新校舎落成記念を兼ねて60周年より2年早く発行）に「秦野校舎温室より移植したトックリラン。

温室植物のうちで現温室に生きている唯一のもの」と写真つきで紹介される。



1981年（昭和56年）

農場・実験実習室施設案内の草花大温室の説明に「この温室南西部に地植えされたトックリランは本校秦野時代からのもので、その大きさは日本有数」と記載される。また、この冊子の表紙が草花大温室のロータリーベンチの写真であることからも当温室が学校のシンボル的存在であったことがうかがえる。



1985年（昭和60年）

創立70周年記念誌にトックリランの写真が掲載される。

２０１０年（平成22年）頃から学校全体の光熱費削減により草花大温室の冬季暖房が停止となる。


秦野時代より生きぬく
トックリラン（国内最大のもの？）

2026年（令和8年）現在

暖房が停止してからも自然環境に順応して生育し続け、株元の直径は1・3メートル以上、高さは約4メートルに達している。



これらの記録から、現在のトックリランは秦野校舎時代から受け継がれてきた可能性が高く、その大きさから樹齢は１３０年程度とも推測されます。

これにより日本に導入された初期の個体であること、そのため日本最大級でもある可能性があります。

・トックリラン保存プロジェクト

このトックリランは、暖房が停止してから約15年間、厳しい寒さや乾燥に耐えながら生き続けてきました。

多くの植物が失われる中で残った姿は、まさに「園芸高校の歴史を見守ってきた記念樹」と呼ぶにふさわしいものです。

現在、学校と同窓会では、この貴重なトックリランを未来へ引き継ぐため、保存方法の検討を進めるとともに、大阪府への働きかけを行っています。園芸高校の歴史とともに歩んできたこのトックリランを、次の世代へ残していくことができるよう、今後も活動を続けてまいります。

同窓生の皆さまにも、ご支援・ご協力をお願いすることがあるかもしれません。その際はどうぞよろしくお願いいたします。

トックリランの保存が実現し、園芸高校の歴史を未来へつなぐ象徴として残されることを願っています。

トックリランの保全

大園同窓会　会長　小南　修身



大園同窓会会員の皆様方におかれましては、ますますご清祥にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

昨年につきましては、１９１５年（大正４年）当時の池田町秦野村尊鉢の地に、本校の前身の豊能郡立農林学校が開校されて以来、歴史の輝かしい節目である府立園芸高校創立１１０周年を、皆様方のご協力・ご支援のもと無事祝賀が行われましたことに、あらためてお礼を申し上げます。

さて、本年は花卉農場に設置されている草花大温室の老朽化に伴い、大阪府教育庁予算付けのもと解体工事が施行されることをご報告いたします。

この大温室には、歴代の担当教職員また各界のご協力者等による寄付や収集により、多くの貴重な植物が管理育成されていましたが、残念なことに十数年前より暖房費用予算の減額のもと、冬季の寒空に暖房は停止され、また一部のガラスの破損のもと温室内に寒風が吹き込むような放置状態となっていました。

この状況のもと、多くの貴重な植物が寒冷の中で枯死してしまいましたが、農林学校時代に入手されたと思われる「トックリラン」の生存が確認されています。

推定樹齢は本校の歴史を超え、根元のトックリ部分の直径は１４０センチ前後の巨大なトックリランは、東京小石川・京都府各植物園にて育成されているトックリランと共に、日本に移入された時期の最古の樹と推測されます。

しかし、大阪府教育庁における温室解体工事の当初の計画では、すべての植物は解体に伴い廃棄処分とされていました。

この貴重な樹の保全について、園芸高校より他所への移植も含めた相談が同窓会にあり、種々検討を重ねた結果移植は難しく、現地での保存を図るお願いを竹田校長先生と同窓会役員にて、教育庁に強く申入れをさせていただいたところ、教育庁もなんとか残すべきであるとし、工事中において一定の養生のもと保存を行うと言う最良の回答を得ました。

解体工事は９月頃から着手を予定されており、トックリラン保存の条件としては、工事による多少の損傷の責任は負わないことと、解体後のトックリラン保全に関する費用は、一切教育庁での負担は行わないとの事でした。

今後の保全については、一案として簡単な東屋の設置で寒さを凌ぎ、トックリランを中心に学生の憩いの場を創造することを検討していますが、他に良案がありましたらご示唆いただきたいと思います。

詳しくは本会報の中で報告していますのでご一読いただき、皆様のご支援・ご協力をお願いするものです。

今後も大園同窓会は、卒業生の皆様と学校そして地域社会を結ぶ大切な架け橋となるべく、役員一同努力を傾注してまいる所存ですので、皆様方におかれましても引き続き同窓会活動へのご理解・ご協力をお願いするとともに、最後になりましたが同窓生の皆様の更なるご健勝を心よりお祈り申し上げご挨拶とさせていただきます。

２０４０年を見据えて…

大阪府立園芸高等学校　校長　竹田　賢司



大園同窓会会員の皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より、本校の教育活動に物心共にお力添えをいただき、衷心よりお礼申し上げます。また、昨年度は、新しい学校案内に多大なるご支援を賜りましたことに改めて厚く御礼申し上げます。

さて、今年２月に文部科学省が２０４０年を見据えた「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）」を公表しました。その中で、今回実業高校についてもかなり言及されたことから、実業高校の中ではかなり話題を呼びました。この基本方針の中で、２０４０年に向けた高校の姿として、３つの視点が掲げられていますが、その中でも視点１「不確実な時代を自立して生きていく主権者として、ＡＩに代替されない能力や個性の伸長」は本校に大きく関係しているところです。この基本方針では、新しい学校のイメージや取り組み例として、「専門高校の機能強化・高度化」が挙げられており、また、「少子化傾向においても専門高校の生徒数を現在と同水準にすること」を目標としています。本校においては、この基本方針を踏まえ、地域連携、アドバンストエッセンシャルワーカーの育成、もの作りから流通までの一体的な学びの実践などが今後一層求められることになります。そのような状況を考えますと、園芸高校は日本全体においても、また、地域社会においても、ますますその存在の重要性が高まっていくことと思われます。

私は本校に赴任して２年目になりますが、園芸高校の魅力を最大限活用し、また、文部科学省が公表しましたグランドデザインを意識しながら、本校がますます発展できるよう全力を尽くして参ります。

大園同窓会の皆様方には、今年度も引き続き、ご協力とご支援を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

変化の時代、未来への人材を！

PTA会長　下田　美緒



令和八年度ＰＴＡ会長の下田美緒です。同窓生の皆様には平素より、現役生の活躍を温かく見守り、支えていただき誠にありがとうございます。

近年、授業料無償化など高校を取り巻く教育環境は変化しておりますが、園芸高校生たちの素直な笑顔や、実習に一生懸命取り組む情熱はいつの時代も変わりません。先輩方から受け継がれた校歌や記念祭の伝統が披露されるたび、歴史の重みと皆様との深い絆を実感しております。

私たち現役の保護者も、子どもたちが夢に向かって健やかに成長できるよう、学校と手を取り合いながら尽力してまいります。

卒業生の皆様におかれましては、これからも現役生たちの心強い応援団として、変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。また、生徒の他府県への遠征費や宿泊費等を金銭的にバックアップする「教育後援会」では、卒業生の皆様にもぜひ賛助会員となっていただき、園芸高校生の果敢なチャレンジ精神を応援する寄付金へのご協力をいただけますと幸いです。

同窓会の皆様の益々のご健勝とご活躍を、心よりお祈り申し上げます。



歴史の語り部『トックリラン』の保存を是非とも皆の力で!

西村　悟郎 先生（恵泉女学園大学名誉教授　元教諭）

私は1978年－82年度の５年間園芸高校の草花園芸に所属し、ラン類や観葉植物の栽培を担当しました。

当時、温室で栽培されていたラン類の多くは今は亡きラン栽培家のご家族から高校に寄贈された貴重なものでした。トックリランについてですが、それは温室のボイラー室側の入り口から入って右に曲がってすぐの左のベッドに植わっていたことを覚えています。その当時から根元の膨らみが大きく立派な株でした。私のイメージでは２m位もあったような気がしています。コンクリートの土留めの内側一杯になるほど株が広がっていました。このトックリランについては、上司の須原崇雄先生からこの様な大きな株は日本では珍しく、この温室の誇るべき宝であるとお聞きしました。

歴史をたどると100年以上前から栽培されてたと考えられ、東京の小石川植物園と京都の京都植物園と同時期に導入された日本では最も古い株の一つと考えられるとの園芸高校の皆さんの見解には同意します。特に、温室の暖房を止めてから15年間ガラス室の中で生き続けてきたことには驚かされます。よく生きてきてくれたという思いが皆様の熱心を支えているのですね。私も心が熱くなります。

移植については技術的な面、また費用の面で困難が予想されますが、この株が日本に現存する最も古い３株の一つとして大阪あるいは兵庫のいずれかに移植、保存されることを心から願います。一番は園芸高校にこそ存在し続けることで、今回の事で、熱帯性気候で育つトックリランが無加温のガラス室で長く生き続けることが出来ることを知りました。私の意見が保存に役立つことを心より願っております。再び「トックリラン」を仰ぎ見ることを思い描きつつ。

植村　修二 先生（帰化植物研究者　元教諭）

今年３月、「草花大温室でどんな植物が生き残っているか見てほしい」と連絡をいただきました。

かつて南国の熱帯植物が数多く育ち私にとって最も魅力的な場所だった草花大温室も、暖房が止められて長い年月が過ぎ、ほとんどの植物は立ち枯れて無残な姿となっていました。温室内には老朽化で危険なため立ち入ることができず、外から確認したところ、私が赴任後初めての実習で植えたゴクラクチョウカをはじめ、デイゴ、コリシア、クロツグ、キフゲットウ、トックリランなどが生き残っていました。中でもトックリランは、当時から近畿でも最大級の大きさを誇り、今ではさらに風格を増していました。

温室など設備は20年、30年も経てば古くなる。しかし、長い年月をかけて育まれた植物は、時を重ねるほど価値と存在感を増していきます。園芸高校の歴史を見守ってきたこのトックリランを、ぜひこれからも大切に受け継いでほしいと願っています。

トックリラン保存寄付金のお願い

100年にもわたって温室で園芸高校を見守り続けてきた生き証人を保存するため寄付金をお願い致します。

同封の振込用紙を使って皆様のご支援をお願い致します。

保存方法は学校で検討しております。また、進捗状況は順次ホームページにてお知らせさせて頂きます。

2025年（令和７年度）大園同窓会会計報告

（令和７年１月１日から12月31日）

１．総　括

収入金額　5,387,032円
支出金額　2,812,662円
差 引 額　2,574,370円

２．収入の部

単位：円

項　目	金　額	摘　要
１．繰越金	3,568,829	池田泉州銀行･ゆうちょ銀行
２．同窓会費	920,442	
３．入会金	592,000	卒業生
４．寄附金	288,380	
５．利息	4,181	２月・８月
６．雑収入	13,200	
合　計	5,387,032	

３．支出の部

単位：円

項　目	金　額	摘　要
１．事務費	1,512,226	同窓会会報他
２．管理費	0	
３．行事及び補助費	1,119,240	110周年誌ほか
４．広報費	153,131	ホーム関係
５．手数料	28,065	ゆうちょ銀行
合　計	2,812,662	

2025年度（令和７年度）大園同窓会会計について監査したところ適正に執行されていたことを認めます

2026年（令和８年）２月４日
会計監査　寺内　勇　印
会計監査　谷端　隆　印

一号報告

大園同窓会会則
（役員の任期）
　第９条の規定により４年の任期が令和８年１月までとなっておりますが、役員会で再任確認ができ、任期を2030年（令和12）１月までとする。
　新規役員は全員留任

一号議案　事業報告について

2025年（令和７）事業報告

令和７年
２月22日（土）　役員会（リモート）
２月27日（木）　令和６年度生同窓会入会式
２月28日（金）　令和６年度卒業式
３月２日（日）　同窓会総会
５月31日（土）　役員会・幹事会
７月　会報編集会議
８月２日（土）　会報編集会議
10月８日（水）　第49号発行
11月９日（日）　役員会・創立記念祭
12月20日（土）　役員会（リモート）

二号議案　会則の一部変更について

（会計年度）
第15条
現　行
　本会の事業及び会計年度は、１月１日から同年の12月31日までとする

改　定
　本会の事業及び会計年度は、４月１日から翌年の３月31日までとする

この会則は、令和８年４月１日からとする。

三号議案　事業計画（案）について

2026年（令和８）事業計画（案）

令和８年
２月21日（土）　役員会
２月26日（木）　令和７年度同窓会入会式
２月27日（金）　令和７年度卒業式
３月１日（日）　同窓会総会
５月中旬　会報資料集め
　役員会・幹事会
７月中旬　会報編集会議
８月下旬　会報編集会議
10月　会報発行
11月　役員会・創立記念祭
令和９年
２月　日（　）　令和８年度同窓会入会式
２月　日（　）　令和８年度卒業式
３月　日（　）　役員会



藤元明緒（平松）＜映画監督・藤元組＞に聞く

インタビュー



藤元　明緒（平松）
＜映画監督・藤元組＞
2006年（平成18年）３月　微生物技術科卒
東京都練馬区在住

＊園芸高校を目指したのは？

園芸高校入学当時は石橋駅の東側に住んでいました。

当時、バスケットボールに熱中していましたが、近辺で強豪校といえば園芸でした。そこで、園芸を目指すことにしました。微生物技術科に入ったのは、食品など生活と勉強とが非常に近いところにあったからです。

＊高校時代に学んだことなど？

ともかくもバスケット一本状態でした。しかし、農作業にしても食品の加工にしてもバスケットにしても、役割分担と協業が中心になる事には変わりがありません。正に、園芸高校は生徒同士が普段から仲良く協業精神に溢れていました。〝チームワーク〟を身に着けるには最適でした。

＊映画の世界を目指されたのは？

当初、映像全般に興味をもって大学に進学しましたが、特に人々の生きる姿や心理をそのまま表現する映像技術の世界に魅力を感じ専門の学校に入り直し、その中で映画制作の道を選びました。そうした時、「ミャンマー」の状況を捉えた作品の募集があり、２０１８年に挑戦の志で作り上げたのが第一作品『僕の帰る場所』です。それ以来、東南アジア等の人々の人間模様やその真実の姿にズームアップしたテーマに取組んでいます。

＊今後の作品の予定は？

現在、日本国内でも民族や宗教の違いを区別の対象にしたり、差別に繋がるような言動が聞かれます。その中でも、日本在住のイスラム教徒の土葬が話題を呼んでいます。そこで、人間の尊厳をお互いにどう認め合うのかといった社会的テーマに取組んでいこうと考えています。

＊園芸高校生及び受験を目指す若人に一言？

小さなことでもいいので、自分が好きなことや興味のあることを学んでいくことを楽しんでほしいです。あるいは、それらを探す時間も。そうして自分の中にある世界を広げていってください。

僕の帰る場所　Passage of Life

［2018年／日本＝ミャンマー合作／98分］

日本に暮らすミャンマー人家族が、難民ビザ申請不認可の影響で離れ離れになる物語。

平成30年度 文部科学省 選定&特別選定作品
◇園芸高校でも上映
第30回東京国際映画祭 アジアの未来部門［＊作品賞、国際交流基金アジアセンター特別賞］
第12回アジア太平洋スクリーンアワード 最優秀児童映画賞ノミネート
第11回バンコクASEAN映画祭［＊審査員賞］
第５回オランダCIEMASIA映画祭［＊最優秀俳優賞：カウン・ミャッ・トゥ］
第19回全州国際映画祭 ワールドシネマスケープ映画祭
第12回ニューヨークJapan Cuts

新作　ロストランド　LOST LAND

［2025年 / 日本=フランス=マレーシア=ドイツ／99分］

無国籍の幼い姉弟が家族との再会を願い、国境を命がけで越えていく希望のロードムービー
第82回ベネチア国際映画祭 オリゾンティ・コンペティション部門
その他　多数受賞



残酷な世界で懸命に生きるふたりが歩む、希望への道
世界中から喝采を浴びた、鮮烈の感動作

自主上映会 受付中　あなたの町で藤元組の映画を上映してみませんか？　詳しくはこちら

☆ 問い合わせ先：https://fujimotofilms.com/jisyujyouei

北海道！大地に　生き物と共に羽搏く

2006年(平成18年)3月　微生物技術科卒
山口命・愛理
北海道夕張郡長沼町　在住

私は大阪府高槻市出身。妻愛理は池田市出身です。２００６年に微生物技術科を卒業しました。

高校の修学旅行で訪れた時、北海道に魅了され「いつか北海道に住みたい」との思いから２０１３年25歳の時に移住。北海道の豊かな自然や食の魅力を感じていく中で、「平飼い養鶏」に出会い、２０２０年に長沼町で新規就農しました。

現在は道産飼料にこだわった安心安全でおいしい〝たまご〟をたくさんの人に届けたいという思いで、夫婦二人三脚で養鶏を営んでいます。たまごの生産だけでなく、小規模ながら野菜の栽培や、修学旅行生等を対象とした民泊の受け入れも行っています。今後は加工品づくりにも挑戦したいと考えています。



私が園芸高校を知るきっかけは、中学生の頃趣味で野菜作りを始めたことでした。高校の進路を考える際、担任の先生から園芸高校を勧められ、オープンスクールに参加しました。最初はフラワーファクトリ科を志望していましたが、将来は食に携わる仕事がしたいと思い、食品製造や食品衛生について学べる微生物技術科に進学しました。

１年生では農業基礎を学び、２年生からは食品製造や実験など専門的な学習に取り組みました。

高校生活で最も印象に残っているのは、食品製造の授業です。もともと食べることや料理が好きだったので、製造授業は毎回楽しみでした。今でも当時作ったお菓子のレシピが役に立っています。

学生時代は「食に携わる仕事がしたい」と考えていましたが、まさか自分が一次産業の農家になるとは想像していませんでした。しかし、農家になることも夢の一つにあったのでその夢を実現することができました。

現在の仕事では、園芸高校で学んだことが実にたくさん活かされています。野菜作りの知識や食品加工の技術など「もっと勉強しておけばよかった」と思うことがたくさんあります。

人々が生きていくためには食は欠かせません。農業はそれを支える大切な仕事です。今日本では農業人口の減少が深刻になっています。さらに地球温暖化の影響で北海道でも暑い日が多くなり、これまで栽培できていた作物も育てにくくなるなど、多くの課題に直面しています。そんな時代だからこそ園芸高校で学ぶことには大きな意味があります。一次産業を支える人材を育てることができるのは、農業高校ならではの魅力だと感じています。園芸高校から、未来の農業や食を支える担い手が一人でも多く育ってくれることを願っています。

何時でもお問い合わせください！
〒069-1317
北海道夕張郡長沼町東一線北９番地（モスガーデン）
https://mossgarden20.thebase.in/



安心・安全で美味しい！平飼いたまごのMossGarden.
北海道長沼町からお届け

箕面市農業祭でお待ちしています

1982年(昭和57年)3月　園芸科卒
箕面支部長　足立享志

箕面支部では、１９９８年の発足以来、園芸高校の魅力を地域の皆さまに知っていただくため、市役所に勤務する同窓生を中心にさまざまな活動を続けてきました。その中でも、発足当初から続く恒例行事が、毎年11月末に開催される箕面市農業祭での販売実習です。在校生と同窓生が力を合わせ、園芸高校で育てた花や加工品、同窓生が育てた農産物を販売しています。昨年は、園芸高校からハボタン、サルビア、パンジー、ビオラなどの花苗や観葉植物、味噌・みからりん・ソース・防災食などの加工品を販売しました。また、同窓生からはネギ、カブ、ダイコン、サツマイモ、ハクサイ、サトイモ、ユズ、ユズ果汁などが並びました。どの商品も大変好評で、販売開始からわずか1時間ほどでほぼ完売。特に花苗は毎年楽しみにしてくださるリピーターの方も多く、長い行列ができるほどの人気でした。

今年の箕面市農業祭は、11月28日（土）午前10時から、箕面市芦原公園で開催されます。（おそらく）28回目の出店となる今年も、在校生と同窓生が心を込めて育てた花や農産物、加工品をたくさんご用意してお待ちしております。ぜひ会場へお越しいただき、今の園芸高校の魅力を感じてください。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

※写真は１９９８年に初めて箕面市農業祭に参加したときのものです。

箕面市農業祭

日　時：11月28日（土）10時
場　所：芦原公園

植物・園芸デザインへの感動から陶芸へ～～　同級生夫妻が語る！

1968年(昭和43年)3月　園芸科卒
杉瀬公美・歌代子（旧上西）
奈良県生駒郡平群町　在住

公美：

幼少の頃より植物に強い関心があり園芸高校に入りました。

入学後は、生物クラブに入部すると共に同級生の森和男氏（現、東アジア植物研究会主宰、２０１８年　松下賞を受賞、同年リーガロイヤルホテルにて記念講演。「雲南の花」他著書多数）が会長を務める「山草同好会」に所属し休日のほとんどを植物採集と花の写真撮影に費やす日々を過ごしました。

卒業後、阪大微生物





初めて参加した箕面市農業祭　1998年11月

学研究室にてアルバイト。その後、大阪市役所公園局に勤務。同時に［日本スミレ研究会］を立ち上げ全国組織に。その間、小学館子供植物図鑑の［スミレ］の項を執筆しました。

母校に園芸デザイン科が発足し、容器制作の一環として陶芸が導入されると就業後ほんの短期間ではあったが、味府先生や卒業生の仲間らと高岡先生指導による陶芸指導を受けた。それを機に盆栽や菫栽培用鉢の制作を手掛けることにしました。又、味府先生（後に常磐会学園大学学長）の自宅アトリエを提供して頂き、歌代子を含む仲間らと陶芸を始めると共に、女流陶芸家荒木高子氏に師事し更に学びを得て、歌代子等も続きました。

又、近代陶芸の父富本憲吉の作品に触れて深く感銘を受けて自らの制作の糧として私淑しました。この頃より本格的に作陶活動を開始し大阪、奈良、東京にて個展を開催。

言うまでもなく私の作品の多くには、山野草をモチーフにしたデザインが多く施されています。富本憲吉記念館を拠点として又も研究会を立ち上げました。憲吉の英国でのバーナードリーチ等との交流や活動を調査するべく渡英する事23回。その間セントアイブスにてリーチ夫人とも面会交流を果たし、帰国後はその都度研究会会誌［あざみ］に調査報告を発表しました。

1977年に結婚を機に生駒郡平群町椿井に自宅兼アトリエ［菫窯］を新設。2年後同町春日丘にアトリエを移設。2009年同町富貴に［ギャラリー・菫工房］を新設。

現在は、

・富本憲吉創設の［新匠工芸会］会員、同事務局を担う。
・京都工芸美術作家協会会員
・東大阪工芸協会
・大阪府立藤井寺工業高校2部非常勤講師　陶芸指導

歌代子：

私は友人の園芸高校見学に同行し母校の自然の豊かさに感動し受験し、入学しました。

子育てと仕事（短大2部幼児教育学科を経て保育士となる）の傍ら陶芸指導と公美の助手として活動。現在、創造美術協会会員。

全て植物繋がりの人生であり、その始まりは園芸高校でした。

美しく長く続く銀杏並木、手入れの行き届いた広い庭園に2羽の白鳥（当時）。畜舎には生まれたばかりの可愛い子豚たち。生徒たちによる田植えや稲刈り。運動会のクラブ紹介では、畜産のクラブの豚が登場し逃走騒ぎになった事も。みんな懐かしい思い出ばかりです。


味府先生（前列中央）を囲んで

教師と生徒間の垣根は低く親密であった。またその関係は卒業後も長きにわたり続いています。

園芸高校では、一粒の種から生命（いのち）を育む営みを通して、自然のもたらす恵みの豊かさや畏敬の念、そして先生方や友人たちとの心温まる交流を通して、多くの学びを得た3年間でありました。

今も尚、陶芸はもとより工房の裏では多くの野菜や果実を無農薬還元栽培で育てています。

豊かな恵みとともに暮らす日々は生涯の楽しみとなっています。

＊近々「同窓会」を計画中！同級の方はご連絡下さい。連絡方法は大園同窓会ホームページを通じて！

「世界一素晴らしい仕事　庭師」

1977年（昭和52年）3月　造園科卒

京都市右京区　在住

北澤佳明

私は約50年前に園芸高校を卒業し、家業である造園業の後継として庭師の道へ進み今日まで庭づくり一筋に歩んできました。

しかし庭師はどんな仕事なのか？具体的にイメージ出来ないかもしれません。庭木の剪定だけではなく、庭を設計、施工も行います。何もなかった土の上に庭を設計し、石を積み、石を張り、木を植栽し、苔を張り、下草を植え景色を造り上げます。巨石も運ぶし、小石も並べ、竹垣も池や滝も造ります。そしてその庭を維持管理するのも庭師の仕事です。

私は個人住宅やお寺、旅館等のお庭を作庭してきましたが、完成した作品がお客様に喜んでいただける、これほど嬉しいことはありません。

笑顔で「毎日、庭を眺めるのが楽しみ。綺麗になった！」と言ってもらえる仕事なのです。

私は京都市右京区高雄に近い自然豊かな場所で暮らしているので、山へ入り、川の姿、谷の水の流れ、自然の石の表情、苔のつき方などを見て歩くのが今でも何よりの楽しみです。石を一つ据えるとき、木を一本植えるときにもその経験が生きていると感じます。しかし、自然界に学ぼうと考えていたわけではありません。気付けば楽しみが先生だったのです。

間もなく70歳を迎えますが、この年齢になって、誰に対しても素直に「ありがとう」と感謝できることの大切さを実感しています。それも、庭師という仕事を通して、多くの方々との出会いに恵まれ、自然から多くを学ばせてもらったおかげだと思っています。

そして、庭師であることに誇りと喜びを感じています。

私が先輩の立場で言えるとしたら、一つでいいから「これは誰にも負けない」と胸を張って言える技術を身につけてほしいということです。一つの技を磨き続けることは根気のいることで、すぐに成果が表れることではありません。隙間を見つけて、コツコツ続けることです。誠実に向き合い、一つひとつの経験を大切に積み重ねてほしいと願っています。その積み重ねは、必ず自分だけの力となるはずです。




最近の作庭




世界！ニッポン行きたい人応援団
2026年4月6日　テレ東に出演

Z世代が語る〝園芸高校の超魅力！〟第3弾

池田支部　幹事
伴　愛依
2026年（令和8年）3月卒業
バイオサイエンス科卒



私は三つの学科の中から、食べることが好きというシンプルな理由でバイオサイエンス科を選びました。

バイオサイエンス科で微生物の研究、パン作り、農産物を使った加工食品の製造。フラワーファクトリ科では野菜を育てたり、花のアレンジメント。環境緑化科では自然環境の調査など、取り組む分野が学科の中でも違い二年生から自分の興味に合わせて選択します。どの学科にも共通していえることは実習の授業が多く、普通の高校では経験できない学びが得られることです。私が特に印象に残っているのは意見発表やプロジェクト発表をしたことです。人前に出ることが苦手でしたが、自分の活動をまとめ、練習を重ね、堂々と発表できた経験は大きな自信につながりました。

また、普通科よりも人数が少ないため、先生や友達とは深く関わることができます。他の学科の友達もたくさんできました。それもとても魅力な点の一つです。入学当初は進学の不安や人間関係の不安を持っていました。しかし今ではこの高校で本当に良かったと心の底からいえます。私が進学を目指した理由は課題研究で取り組んでいた問題解決に向けてもっと深く学びたいと思ったからです。これからも食と関わり、高校で得た知識や技術を生かし、自分にできることを見つけて社会に貢献できる一員になれるよう努力していきます。少しでも食に興味がある方、自然が好き、勉強が苦手でも体を動かすことが好きな方、そしてまだ〝やりたいこと〟が見つかっていない方にも、園芸高校は強くおすすめできます。

枚方交野支部
伊東　琉斐（いとうりゅうひ）
2024年（令和6年）3月卒業
環境緑化科卒

園芸高校卒業後に龍谷大学農学部へ進学。（農業高校は就職のほかに、意外にも農業系への進学が強いのでオススメ！）

園芸高校の思い出は農業の専門科目の授業で、一年生の頃の農業と環境では自分で栽培した野菜たちの美味しさに感動。収穫量が多すぎたので近所の方にも分けると喜んでくれたことにも嬉しさを感じたこと、

造園の授業では、手先が不器用ながら先生方から親切に丁寧に教えていただいて、少しずつ綺麗な小庭を製作できたことに成長を実感しました。ビオトープ部の活動も除草作業などは大変でしたが、部活メンバーの皆と協力して作業をしたり、ＦＦＪプロジェクト発表では仲間と激励しあったりと高校生活の中でも印象深い時間を過ごしました。

受験生へのメッセージ：

植物、動物、自然が好きならもう迷う必要はありません、私自身も「好き」という理由だけで園芸高校へと進学しましたが後悔をする場面がなかったです。是非オープンキャンパスへお越しください！

休日は釣り
2024年（令和6年）3月卒業

自然が好きで、自然に関わる仕事がしたいと思った私は、園芸高校に入学しました。授業で実際に土を触りながら植物や樹木を学び、毎日がワクワクの連続でした。

園芸高校のいいところは、普通の公立高校なのに専門学校のような専門知識が身につけられる点です。特に免許取得に力を入れているので、新入生の皆さんは取れる資格は在学中に取っておくことをおすすめします！

令和7年進路状況

■令和７年度府立園芸高校卒業生徒の進路状況一覧

生徒の就職先一覧

【関連企業】

大阪北部農業協同組合、株式会社トレーダー愛、クリエイティブ・フラワー・コーポレーション株式会社、中井青果株式会社、阪神園芸株式会社、株式会社ＹＫベーキングカンパニー、マリンフード株式会社、株式会社蓬莱、ハウスウェルネスフーズ株式会社、京阪園芸株式会社、一般社団法人芦屋カンツリー倶楽部、株式会社朝日興産、一般社団法人鳴尾ゴルフ倶楽部、株式会社植伸建設、株式会社太平洋ゴルフサービス、株式会社乾造園、株式会社興陽造園、沢井製薬株式会社三田工場、伊藤ハム米久フーズ株式会社、健栄製薬株式会社、株式会社５５１蓬莱、株式会社クボタ、太陽ファルマテック株式会社

【その他企業】

株式会社リビアス、ＴＢＣグループ株式会社、ヤマト運輸株式会社北大阪主管支店、株式会社関西スーパーマーケット、イオンリテール株式会社、西日本カンパニー、一般社団法人茨木カンツリー倶楽部、コウノイケ・エアポートサービス株式会社伊丹事業所、一般社団法人宝塚ゴルフ倶楽部、株式会社きんでん、株式会社叙々苑、株式会社ヒューテックノオリン、株式会社にしけい、サカエトランスポート株式会社、株式会社ファイブ・フォックス、王子イメージングメディア株式会社神崎工場、神鋼環境メンテナンス株式会社上下水道本部オペレーション部、株式会社秋吉グループ大阪本部、日本郵便株式会社近畿支社、ＴＢＫエアポートグランドサービス株式会社、イズミヤ・阪急オアシス株式会社、株式会社空港専門大店、東洋テック株式会社、株式会社王将フードサービス（餃子の王将）、神崎合紙株式会社

【公務員】

自衛隊　４名

生徒の進学先一覧

４年制大学進学者　39名（うち国公立大学６名）

○国公立大学

鳥取大学（２名）、岡山大学（２名）、公立鳥取環境大学、京都教育大学

○私立大学

大阪青山大学、大阪産業大学、神戸女学院大学、京都芸術工科大学、龍谷大学、大阪音楽大学、梅花女子大学、摂南大学、近畿大学、吉備国際大学、南九州大学、大阪成蹊大学、大手前大学、日本大学、関西国際大学、酪農学園大学、長浜バイオ大学

○短期大学

大和大学白鳳短期大学部看護学科、大阪成蹊短期大学調理・製菓学科、大阪青山大学こども教育学部こども教育学科、大阪産業大学経営学部経営学科、神戸女学院大学生命環境学部生命環境学科、京都芸術工科大学、龍谷大学農学部農学科、大阪音楽大学音楽学科ポピュラーエンターテインメント専攻ポピュラーインストゥルメントコース、鳥取大学農学部生命環境農学科、岡山大学農学部農学科、梅花女子大学文化表現学部情報メディア学科、摂南大学農学部農業生産学科、近畿大学農学部農業生産科学科、吉備国際大学農学部アクアグリーンフィールド学科、龍谷大学農学部食料農業システム学科、公立鳥取環境大学環境学部環境学科、宝塚医療大学、南九州大学環境園芸学部、大阪経済大学、京都教育大学教育学部技術領域、大阪成蹊大学経営学部経営学科経営コース、大手前大学健康栄養学部管理栄養学科、日本大学生物資源科学部アグリサイエンス学科、摂南大学農学部食農ビジネス学科、関西国際大学情報学部情報デザイン学科、大阪青山大学看護学科、酪農学園大学食農環境学群環境共生学類、摂南大学農学部食農ビジネス学科、長浜バイオ大学バイオサイエンス学部フロンティアサイエンス学科、鳥取大学農学部生命環境農学科農芸化学コース、大手前大学国際日本学部国際日本学科、大阪成蹊大学経営学部経営学科食ビジネスコース



Ｒ７新幹事



フラワーファクトリ科

櫻井一騎、　堀之内姫央、　中島彦之神、　平野晟碧

環境緑化科

堀口大輝、川合志歩

バイオサイエンス科

藤本蓮、　山本姫愛、　矢野空蓮羽、　伴愛依

年会費（¥3,000）納入と寄付金にご協力ください！

令和４年度より、年会費を2,000円から3,000円に改正し、資金の確保に努め、会報の発行、母校の支援等に活用させて頂いております。

また、同窓会活動と共に学校生徒の研究等のために、支援を行うことを目的に会費とは別に110周年記念行事の「賛助者」を募り賛助金として納付していただきました。この賛助金につきましては、昨年度納入分で終了し、今回お願いさせていただくのは、年会費とは別に、引き続き学校生徒の研究等の発展に貢献、また同窓会活動と何よりも永年劣化が進む同窓会館の維持管理をするために寄付金の納入にご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

ー 編集部からのお願い ー

☆会報やホームページでの情報発信のために卒業生の動向やクラス会の開催など、話題の提供をお願いします
☆下記についてどのような事でも情報の提供をお願いします
- 校歌や応援歌の成作いきさつ、歌詞や楽譜
- 校章にまつわる経緯について
- 昭和30年代に庭園に「白鳥」が飼育されていた写真や経緯
- 個人の遺品で園芸高校に関係するもののご提供
- ニュービスの写真やレシピ

連絡先：事務局　喜田　uvnv15821@zeus.eonet.ne.jp
編集部　山本　tad2629yama@gmail.com
岡崎　sachio.y.s1019@gmail.com

◀会報送付先 住所等の変更

◀お問い合わせ

令和８年　創立記念祭のご案内

2026年11月８日（日）10：00 ～ 15：00

同窓会員、元教職員、PTA 等の方ふるってのご参加をお願いします。
学習研究成果の発表、各種展示、野菜・生産品の販売、
バザー・屋台等々、総力を挙げて準備します。
◎同窓会館を休憩所にあて簡単な飲物を用意しております。
懇談等にもご利用下さい。住所変更等の受付も行います。

園芸高等学校

大園同窓会

2026年度　同窓会総会のご案内

年度設定の会則の変更により、2026年度総会は以下の予定で開催を計画中です
2027年５月中旬（学校行事が未定のため）
＊決定次第、ホームページ又は役員より連絡します

編集後記

今回の会報は、創刊以来50号（50周年）の記念です。
その歴史を語るかのように、崩落寸前の旧草花温室内で「100年生き続けたトックリラン」が確認されました。国内でも非常に希少価値の高い植物と話題になっています。本号は、その歴史と意義と保存を特集しました。是非とも私達の協力で保存・整備致したいと念願します。

先の見えない時代の中、学校では教育進路に総力を挙げて頂いており、今年も就職進学に良好な成果を示して頂きました。

皆様の、学校へ、同窓会へのさらなるご支援を厚くお願いします。

（編集責任者　山本正）

